

1. 科目名（単位数）	造形芸術Ⅰ（2単位）	3. 科目番号	SJMP1321
2. 授業担当教員	井戸川 敦		
4. 授業形態	演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係			
7. 講義概要	表現の基本は「みる、かぐ、あじわう、きく、ふれる」という人間の本来持っている五感を活用して感じ、感じ取り、「扱う素材・材料の特性」を最大限に活かしながら表現し伝えることです。この表現の基本を踏まえながら「こころと身体」を開放し独自の表現をおこなえた時、表現者は自己肯定感に満たされ幸福感を実感することが出来ます。これこそが「美術の力」であり存在意義であると言えます。皆さんには是非この表現活動の魅力を体験的に身に付けて欲しいと思います。		
8. 学習目標	1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現の喜び、感動を実感として得る。 2. 五感で感じ取り表現する体験をとおして独自の表現の力を養う。 3. 素材の特性を活かした造形表現能力を養う。 4. 感性と表現、五感と素材表現、プレゼンテーション、コミュニケーション能力を養う。		
9. アサイメント （宿題）及びレポート課題	1. 毎時の授業において制作する作品を提出課題とする。 2. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 3. 鑑賞として、授業における取り組みの成果の発表を行う時間を設ける。 以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。		
10. 教科書・参考書・ 教材	【教科書】日本造形教育研究会編集『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』開隆堂出版 また、適宜資料を配布します。作品制作のための道具、材料は事前に指示するので各自で用意すること。		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	○成績評価の規準 1. 造形活動にどのように向き合い取り組んだかという点を評価する。 2. 作品への取り組み方による評価を行う。 ○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。 1. 授業への積極的参加 総合点の 20％ 2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み 総合点の 30％ 3. 制作や鑑賞活動の成果（ポートフォリオ等） 総合点の 30％ 4. 課題（作品発表、レポート等） 総合点の 20％		
12. 受講生への メッセージ	「造形表現Ⅰ」では、主に平面作品の制作を通して自分の表現を探る。五感で感じ、さまざまな技法に触れ、表現する楽しさを実感してほしい。指示されたノルマやプログラムをただこなすのではなく、表現活動に失敗はないので、自分の興味関心を大切にして創意工夫を繰り返し、自分自身を深く感じ考え、時には厳しい姿勢で取り組み、内容のある作品の制作を目指してほしい。 【注意事項】 1. 制作活動で用いられる様々な材料・用具（描画材・絵の具・画用紙等）は、各自が準備すること。授業内で随時伝えていく。 2. 絵の具などを使用するため、汚れてもよい服装で出席することが望ましい。		
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等（メールなどで事前にご連絡ください）		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の発想と構成について	事前学習	教科書『美術 表現と鑑賞 -想いを形に-』に目を通す。 過去の作品制作体験を振り返り、その経験をスケッチブックに絵や文章等で自由に表現する。
		事後学習	造形芸術Ⅰでやってみたいことのイメージを膨らませ、アイデアや表現をスケッチブックに描く。
第2回	◇ 表現の基礎 素材の特徴と組み合わせについて （講義＋演習）	事前学習	教科書 pp. 30-31 を読む。 過去の作品制作体験を振り返り、その経験をスケッチブックに絵や文章等で自由に表現する。
		事後学習	美術・芸術作品に親しむ為に、メディアを通じた美術鑑賞を行う。
第3回	木炭デッサンⅠ 「静物デッサン」 （講義＋演習）	事前学習	教科書 pp. 38-39 を読む。 好きなもの・興味のあるものの特徴を観察し、スケッチブックに描く。
		事後学習	木炭と木炭紙を使用し、モチーフをよく観察して描く。
第4回	木炭デッサンⅡ 「静物デッサン」 （演習）	事前学習	木炭と木炭紙を使用し、モチーフをよく観察して描く。
		事後学習	以後のカリキュラムのために、さまざまな絵の具の表現方法の理解を深めることを目的

			として、その技法と表現について調べる。
第 5 回	木炭デッサン III 「自画像」 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 42-45 を読む。 自分の手をよく観察し、スケッチブックに描く。
		事後学習	木炭と木炭紙を使用し、モチーフをよく観察して描く。
第 6 回	木炭デッサン IV 「自画像」 (演習)	事前学習	自分の表現について考え、スケッチブックに書いてまとめる。
		事後学習	自分の中から湧き上がるイメージに疑問を持たず、スケッチブックに表現する。
第 7 回	人物クロッキー 「短時間で描く友人」 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 28-29 を読む。 人体の構造について web など調べ。
		事後学習	プロポーションやムーブメントを把握する能力を養う為、今回の課題で体験的に学んだことを参考にしてカタチを捉えることを目的に、周囲の素材をモチーフとして描き、その見方を再認識する。
第 8 回	造形遊び I 「カブラを使った頭の体操」 (演習)	事前学習	本物そっくりに上手に描くことにどのような意味があるのか、自分の経験も振り返りながら考察しまとめる。
		事後学習	今までの様々な経験の中で特に印象に残っていることを、その記憶を頼りに、スケッチブックに絵や文章等で自由に描く(書く)。
第 9 回	造形遊び II 「モダンテクニックによる表現 -デカルコマニー・糸引き絵・シャボン写し-」 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 12-13 を読む。 今までの授業で印象に残っていることを、スケッチブックに絵や文章等で自由に表現しまとめる。
		事後学習	今までの様々な経験の中で特に印象に残っていることを、スケッチブックに「色」を使って自由に表現する。
第 10 回	造形遊び III 「五感をつかった表現 -見て、触って、たたいて、嗅いで、味わってりんごを表現する-」 (講義＋演習)	事前学習	五感で感じ経験した様々な情報を、「色」を使ってスケッチブックに自由に表現する。
		事後学習	様々なモチーフを授業と同様に五感で感じ体験しながら、スケッチブックに自由に表現し描く。
第 11 回	凸版画 I 「年賀状の制作」 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 50-54 を読む。 前回のカリキュラムまでで考えた自分の作品の特徴を生かし、今回のカリキュラムのアイデアスケッチを行う。また、自分の表現に適した素材や技法について考える。
		事後学習	版画表現を行ってみて、特に印象に残ったことについて、感じたこと、考えたことを自分のスケッチブックにまとめる。
第 12 回	凸版画 II 「年賀状の制作」 (演習)	事前学習	今回の版画表現について、自分らしく仕上げていくイメージを持つ。
		事後学習	これまでの制作活動を振り返り、自己評価をまとめる。特に自身の造形表現の長所について自分のスケッチブックにまとめる。
第 13 回	凹版画 I 「“自分”をテーマに制作・研究 -エスキース(下描き)の制作-」 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 55-57 を読む。 自身の作品制作に関わるコンセプトやコンテキストについて考察し、「制作のテーマ」を言葉で表現する。
		事後学習	素材表現の可能性について試行錯誤し、探求する。
第 14 回	凹版画 II 「“自分”をテーマに制作・研究 -凹版画(ドライポイント)の制作-」 (講義＋演習)	事前学習	教科書 pp. 150-153 を読む。 本物そっくりに上手に描くことにどのような意味があるのか、そして、その行為を超える表現の獲得を目指した作家の考察をする。
		事後学習	1)各段階における作業目標を意識しながら身に付け、取り組みを進める。2)自分の技術だけに頼った「わかったつもり」の作業をしない。 上記を念頭に、最後の授業に臨む。
第 15 回	凹版画 III 「“自分”をテーマに制作・研究 -凹版画(ドライポイント)の制作と刷りの実践-」 (講義＋演習＋発表)	事前学習	現段階における作業の到達点(自分独自のカタチの見方や捉え方など、基本的技術の到達点)を意識し理解することを目的に、スケッチブックにまとめる。
		事後学習	制作することに対する意識を高めるため、造詣を深める。また、興味・関心・創作意欲を養うために図書館やwebなどで美術・芸術の情報に触れ、美術館で本物の作品に直に触れ

			る機会を積極的につくる。現代美術にも積極的にふれる。
--	--	--	----------------------------

|